

令和7年度 社会科実践・研究計画

部 員	○石田智之、山崎泰明、石井知徳
-----	-----------------

1 昨年度の成果と課題

昨年度の実践を通して、社会科における自律した学習者の姿が見えてきた。

- ① 6年「歴史調査～秋田の戊辰戦争とは！？～」では、本校6年生が修学旅行で訪れる函館とふるさと秋田の「戊辰戦争」でのつながりに気付くことから単元の学習が展開されるように、秋田市の身近な場所にある秋田の戊辰戦争戦死者の墓や碑の写真資料や新聞記事を提示した。また、秋田の戊辰戦争に関わるものや人に直接触れ、観察や聞き取りを通して情報を集めることができるように、秋田市八橋全良寺にある戊辰戦争戦死者の墓に刻まれた文字を読み取る野外調査活動や官修墓地を守ってきた全良寺住職の講話を聞く活動を設定した。観察や聞き取りを通して秋田の戊辰戦争に関わるものや人に直接触れる機会を得たことで秋田の戊辰戦争が自分事となり、そのことを学ぶ切実感が子どもたちに生まれていた。このことにより、問題意識をもちながら、その問いを解決しようと本気になって追究していく姿が見られた。切実な課題をもつための資料提示や体験の重要性が確認できた。
- ② 5年『食料問題解決ゲーム』をつくろう！～これからの食料生産とわたしたち～」では、様々な食料問題についての原因と現状を各自が調べ上げ、その解決策について考えをもつために、ペアやグループ、他グループの仲間にも意見を求めたり情報交換をしたりする場面を柔軟に設定した。解決策には、現状の改善、原因の追及、一つ先の未来に向けた解決策などが考えられ、情報交換をする中で自分の考えを整理したり、新たな課題を問い直したりしていく姿が見られた。また、そのようにしてつくられたゲームを互いに試し合うことも情報交換の場となり、広く社会的事象を見つめていく機会ともなった。しかし、より効果的に情報交換による考えの更新につながる単元構成の工夫の必要性がある。

こうした成果と課題を踏まえ、個別の課題を追究する学びと協働で情報交換や話し合いを進めていく学習活動の往還が効果的に行われる学習になるよう、学習全体を支える資料や学習方略の精選をし、子ども自身が問題解決のために自らの学習状況を見つめ、考えを深める姿を引き出すための授業構想していく。社会科部では自律した学習者の姿を次のように捉え、自律した学習者が育つ授業デザインの具体的な取組を次のように設定する。

2 社会科における自律した学習者の姿

- ① 資料や社会的事象を基に課題をもち、解決への見通しをもつ姿
- ② 自らの学習状況を見つめ、調べ直したり考え直したりしながら社会的事象を追究している姿
- ③ 根拠や理由を明確にしてまとめ、自分の意見や提案を説明している姿



3 授業デザインの具体的な取組

- 複数の資料や日常生活につながる事象等、価値ある問いを促す資料提示をする。
- 互いの考えのずれや曖昧さを情報交換によって焦点化し、全体で共有する場をもつ。
- まとめを基に、問題の解決や自らの生活への活用を意識した、自分なりの考えや提案を述べる場面をゴールとする単元構想を工夫する。